

天文
同好會

觀 測 部 月 報

太陽課月例報告

幹 事 柴 田 淑 次

七月は、豫想外に全くいゝお天氣に恵まれた。雨の降つた日も極く僅かで、日照時間も非常に多く、太陽觀測に好適の月であつた。併し、悲しい哉、今月は、私にごつて、全く忙しい月であつて、旅行も病氣も、重なり重なつて、さう々々太陽寫眞一枚も撮る日がなかつた。大きい黒點も可なり出現したらしいのに、誠に残念である。八月は、又大學の天文臺が花山の新築天文臺へ移轉するのこ、私の旅行も、撮影の出來さうにない事を豫め御断りして置く。

以上により、今月は、唯、九月の太陽物理表を、例によつて、六月の黒點觀測者の相對數の一覽表のみを掲げる。

日 付	P_0	B_0	L_0
9月 3日	+21.57	+7.22	283.91
8	22.73	7.25	217.88
13	23.74	7.22	151.86
18	24.60	7.14	85.85
23	25.30	7.01	19.85
28	25.83	6.83	313.86

註：一 上記の値は、日本中央標準時の午前九時に相當する。

9月8日頃には B_0 が、最大になる事に御注意。

S. A. F. 會員の黒點觀測報告一覽(六月)

觀 測 者	觀 測 地	機 械	倍 率	方 法
三澤勝衛	長野縣諏訪	屈折 80 mm	83×	直視
龜井壽彦	大分縣臼杵町	〃 55 mm	64×	〃
宮本正太郎	廣島市	〃 58 mm	64×	〃
今日津績	兵庫縣大野村	反射 75 mm	39×	〃
濱野勝	愛媛縣砥部町	屈折 40 mm	50×	〃
伊田義郎	大阪市	〃 20 mm	5×	投影
吹高峻	東京市	〃 58 mm	32×	直視

日付	三澤	龜井	今津	宮本	日野	濱田	伊吹	平均
1	—	30	—	52	65	26	—	44
2	53	46	—	48	36	26	29	40
3	39	51	—	50	38	26	29	39
4	61	73	—	87	74	26	46	61
5	75	—	—	—	—	80	74	76
6	76	83	23	—	—	89	75	69
7	70	112	47	93	80	119	—	87
8	79	72	—	90	72	94	86	82
9	77	46	104	74	63	96	90	79
10	77	68	107	86	59	100	91	84
11	63	—	—	—	—	—	91	77
12	—	—	—	—	—	—	—	—
13	140	—	136	142	159	171	—	150
14	133	114	152	137	153	136	—	138
15	90	—	126	131	147	—	—	124
16	87	108	—	115	—	112	110	106
17	97	88	—	67	48	119	110	88
18	131	135	130	135	113	82	—	121
19	107	113	126	111	98	136	122	116
20	133	150	—	—	—	115	140	135
21	141	—	—	102	—	—	—	122
22	138	148	—	133	90	98	143	125
23	165	156	126	131	—	166	—	149
24	—	103	134	113	—	—	—	117
25	112	102	134	107	84	140	90	110
26	112	103	98	74	—	94	75	111
27	103	123	87	62	80	87	71	88
28	73	71	73	100	77	112	66	82
29	98	—	—	—	—	105	130	111
30	123	88	—	133	104	—	117	113
k	1.00	1.24	1.58	1.34	1.50	2.34	1.34	平均 94.6

観測部流星課報告

流星課長

小楨 孝二郎

五月に於ける流星観測者は下記の通りである。

観測者	(略符)	観測地	観測時間	観測個数
小楨孝二郎	(Ko)	和歌山縣有田郡金屋	595 ^分	42
改發香鳩	(Ka)	神戸市西須磨	110	2
原田參太郎	(Ha)	大分市大分橋通三丁目	155	8
田中鐵馬	(Ta)	福岡市外箱崎町中小路3226中島方	480	25
武重颯仙	(Ts)	長野市北石堂町	950	80
山崎幸夫	(Ym)	大阪府中河内郡龍華町安中	130	1
寺垣覺一	(Te)	和歌山縣有田郡鳥屋城村	120	9
宮原亥重子	(Mi)	長野市南縣町	420	22
小林保	(Kb)	長野縣上水内郡柏原村	60	1

總観測時数 3020分 總観測個数 190個

以上の外、京大理學部の村上忠敬氏 (Mk) 及廣島市の長谷秋男氏 (Hs) 氏より火球を各一個づゝ報告された。

1) 観測されたる流星を各日別に記せば次の通りなる。

日	1	2	4	5	6	10	11	12	13	14	17	18	20	21	22	24	26	27	28	29	30	31
(obs)																						
(Ko)	0	0	7	14		4	12	0					5							0		
(Ka)										2												
(Ha)			5	3																		
(Ta)			18					5														
(Ts)			15	13		7	14				2		11	5	1		0			2	0	
(Ym)						0	0											1		0	1	21
(Te)								9														
(Mi)	3									3		7				3						6
(Kb)																						1
計	3	0	15	30	30	0	11	40	2	3	2	7	16	5	1	3	0	1	0	3	7	21

2) 次に 0 等以上の大流星及び火球の観測を集録するこ

日付	時刻	確度	継続時間 秒	光度 星金ノ 数倍	速サ	色	其他	観測者	出現點		消滅點		備考
									α	s	α	s	
1	20 10	—	3.0	—	—	B→R		(Hs)	108	+36	87	+29	消滅點ニ テ爆發
5	3 6	5	1.0	-3	rR	BW	痕 1秒	(Ta)	307	-13	292	-13	火粉ヲ散 ラシ尖曲
12	0 37	4	0.6	0	rR	BW		(,,)	278.5	+24	285.5	+33	
〃	0 58	5	0.4	0	rR	W		(,,)	268.5	-12	275	-9.5	
14	19 43	—	—	-4	rS	YR	蛇行	(Mk)	195	-34	207	-47	地平線ニ テ消滅
20	3 6	4	0.8	-1.8	S	BW— WY	痕 2.5	(Ts)	329	+25	322	+9	

3) 上旬の水瓶座流星群

この流星群はハリー彗星に關聯するものであるが、從來本邦ではあまり観測されてゐない流星群である。本年度は月の圍係がよくて二三の人々によつて観測を計畫されたが天氣惡の爲充分なる結果を收め得なかつた。

I. 出現状態

日付	観測時間	(obs)	流星数	水瓶座	同左一時 間平均	雲量	備考
5	1:09→4:30分	(Ta)	18	4	1.14	0	月(25)
5	2 20 →4 0	(Ko)	7	4	2.40	2	(月25)
〃	3 15 →4 20	(Ha)	5	2	1.85	0	月(26)
6	2 25 →3 55	(Ko)	14	7	4.67	0	月(27)
〃	2 50 →4 20	(Ha)	3	3	2.00	0	〃
〃	3 5 →4 5	(Ts)	13	2	2.00	0	〃
11	2 40 →3 40	(Ko)	4	2	2.00	2→1	

備考 (A) 5日曉 (Ta) の観測平均数の少きは輻射點が地平線上に出でざる時よりの観測時間数を算入したる爲なり。

(B) 同日曉(Ha)の観測中には水瓶座に屬するもの猶3個ありしこ。これを算入すれば平均数は4.62となる。

(C) 6日曉(Ha)の観測中にも水瓶座に屬するもの猶4個認めたる由、故に之を算入すれば、一時間平均数は4.67となり。(Ko)の値に一致す。

水瓶座観測個数計 24個

II. 光度ご其の割合.

観測されたる 24 個の流星を光度別に整理すれば次の如くなる。

光 度	(Ko)	(Ha)	(Ta)	(Ts)	計	百 分 比
0.5-1	3	1	2		6	25.00
1.5-2	2	1		1	4	16.67
2.5-3	3	1	2		6	25.00
3.5-4	3	1		1	5	21.43
4.5-5	2	1			3	12.50

III. 痕を有せる流星数

	(Ko)	(Ha)	(Ta)	(Ts)	計	全個数ニ對スル 百分比
個 数	8	2	1	0	11	45.85

IV. 輻射點ニ軌道要素

叙上の観測より求められた輻射點は 4 個ある。其中 Ko が六日曉の 7 個より誘導せる輻射點を RA=336° Decl.=-0.5° として拋物線軌道を計算した。比較の爲めハレー彗星の要素をも併記して置く。

	e	ω	Ω	i	q
ハレー彗星	0.96728	111° 42'	57° 16'	162° 13'	0.5872
水瓶座流星群	1.00000	104.°6	44.°8	161.°6	0.6318

4. 観測より誘導せる輻射點

日付	観測時間	Apex	Radiant		流星数	観測者	備考
			R.A.	Decl.			
5	1時0分 → 4時30分	312.°9	335°	0°	4	(Ta)	水瓶群(良)
ク	ク	ク	305	+9	3	(,,)	
ク	ク	ク	284	+36	3	(,,)	

5	2時20分 → 4時0分	312.9	336	-0.5	4	(Ko)	水瓶群
〃	3 15 → 4 20	313.0	} 334	-2	} 4	(Ha)	〃
6	2 50 → 4 20	314.0					
〃	2 25 → 3 55	313.9	336	-0.5	7	(Ko)	〃 (良)
〃	3 5 → 4 5	313.9	315.5	+12.5	7	(Ts)	
11	20 25 → 21 15	319.5	146.5	+8	5	(Ts)	π-Leonid
12	0 20 → 2 20	319.8	246	-10	3	(Ko)	
〃	〃	〃	237	+55	3	(Te)	
〃	2 30 → 4 0	319.8	345.5	+22	5	(Ts)	
〃	〃	〃	180	+11	4	(,,)	
〃	〃	〃	293	+2	4	(,,)	* Aquilid
20	2 0 → 3 30	327.4	293	+6	6	(,,)	Aquilid
31	2 10 → 3 30	338.3	292.5	+2	4	(,,)	Aquilid
〃	〃	338.3	337	+36	5	(,,)	
〃	20 20 → 21 10	339.0	242	+29	3	(,,)	北冠群

* 武重氏は12日、20日、31日の三回に互つて鷲座 δ 附近に輻射點を求められてゐる。これは果して同一の流星群？ 否？ 來年度に於て之れが輻射點の檢出をする要があらうと思ふ。(1929. 6. 16)

彗星課より

課長 山本 一 清

本誌第460頁の記事を書いて二三日した時、コペンハーゲン天文臺から二つの新彗星發見電報を受け取つた。一つはニウジミン氏が八月2日に發見の13等星。他はフォルベス氏が其の翌日に發見した光度不明星。何れも太陽との對衝に近い位置である。八月十日の夜、中村要氏が神戸支部幹事改發氏の15センチ赤道儀で之れ等を搜したが、もやのため見えなかつた由。二つとも新しいものらしい。従つて、豫期されてゐるペラインやジャコビニ等は依然として音が無い。(BULLETIN 157)